

1. 題目

インド亜大陸北東部の世界最大の豪雨

2. 発表者

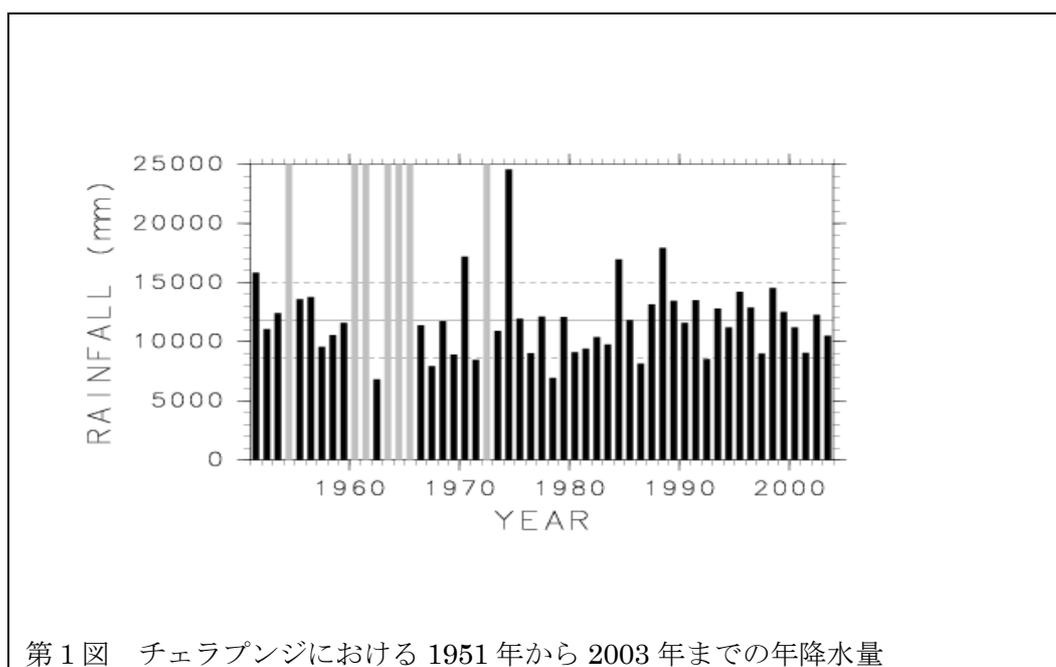
林泰一(京都大学防災研究所・助教授)

要旨

インド亜大陸の北東部のインドのメガラヤ、アッサム、およびバングラデシュは、世界最大の降雨地域の一つである。特にメガラヤ高地(高度約 2,000m)の南斜面にあるチェラプンジでは、1860年8月から 1861年7月までの1年間に 26,461mm の降雨量があり、これは観測史上最大の年間降雨量である。第1図に、1951年から2003年までのチェラプンジの年間降水量の変化を示す。降水量の年々変化が大きく、1974年には 24,000mm を超える一方、1962,1978 年には 7000mm 程度の年降水量を示している。このメガラヤ高地の南斜面で降った雨はすべて、下流のバングラデシュへと流れ落ちる。このため、バングラデシュでは洪水が発生する。

我々は、バングラデシュでの洪水の実態を調査研究するために、現地観測を実施している。バングラデシュの北東部には、2003年から10個の転倒ます雨量計を配置した。また、インドのメガラヤとその北側のアッサムには2006年に20この雨量計を配置して観測を開始した。

セミナーでは、この初期結果について報告する。



第1図 チェラプンジにおける 1951 年から 2003 年までの年降水量